

秀麗な北信五岳を望み、景観に富む、ここ北信濃の大地にも、心待ちしていた春の息吹が感じられる今日のように日に、新たに全日制課程 総合学科二百一名、定時制課程 普通科十一名の若者を迎え、令和二年度長野県中野立志館高等学校の入学式を挙行できますことは、私の心からの喜びとするところであります。

本来であれば、中野市長様はじめ、同窓会、PTA、さらに本校にゆかりのあるご来賓の皆様にご臨席を賜わる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご光彩を添えていただくことが叶わなかったことに対し、大変残念であり、皆様に申し訳なく思っております。

さて新入生諸君、入学おめでとうございます。本日から君たちは、晴れて中野立志館高校の生徒となりました。高校進学という人生の選択をし、今日という日を迎えている君たちの心は、今、晴れやかな喜びで一杯であろうと思います。

さまざまな可能性を秘めた皆さんが、本校の生徒として歩み始めるにあたって是非考えてほしい事があります。義務教育と高等教育との違いを改めて考えてほしいということです。高校は自ら学ぶ意思のあるものが在籍を許されることです。ですから、子どもっぽい考えや振る舞いに別れを告げてほしいということです。これからの在学中に皆さんは肉体的には成人並みに発達します。しかし、精神的な発達には努力が必要です。いわゆる子どもか子どもでないか、その違いは「自意識」を持てるか否かにあります。「自意識」とは、自分はどういう人間であるか、集団や社会の中では自分はどのような人間であらねばならないか、どのように振る舞うべきかを深く考え、行動しなければなりません。そして人が自分に何をしてくれるのかではなく、自分が人のために何が出来るかを考えられる人になってください。青年期の一年は大人になってから十年にも匹敵すると言います。高校在学中は人間としての充実を図る貴重な時間ですので、これからの時間を無為に過ごしてはなりません。高校生とは、単に通学する校舎が変わることではなく、皆さん一人ひとりが変わることなのです。自覚と責任をわきまえた高校生としての自分、たくましい社会人へと成長する自分になることなのです。

本日の入学式は、皆さんが自ら学び、自らの成長を願う決意を確認し、保護者の方をはじめとする周囲に対して宣誓する場でもありました。

これから一斉に走り出す皆さんに、スタートの合図代わりに幕末の武士 吉田松陰のことばを贈ります。

「夢なき者に理想なし、理想亡き者に計画なし、計画亡き者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」

何かを成そうと思えば、心に熱く清く高い志が必要です。すべては志を立てることから始まるのです。今日を境に、社会を構成する一員を目指すことを望みます。勉強はもちろん部活動、生徒会活動、ボランティア活動など様々な分野に積極的に取り組んでください。そんな皆さんを、我々中野立志館高校の職員は応援し支援いたします。

最後に保護者の皆様、お子様の中野立志館高校へのご入学、おめでとうございます。大切に育てられたわが子が、人生最初の大きな試練を乗り越えた姿をご覧になり、お喜びも一塩と拝察申し上げます。今日から、子供たちの新しい成長の道が始まります。現在は、厳しい状況ではありますが、保護者の皆さんには、学校と手を携えながら、子供たちの成長を支援してほしいと思います。

今、まさに芽吹き開かんとする草花のように、新入生がこの中野立志館高校では素晴らしい高校生活を謳歌し活躍することを祈念し、式辞といたします。

令和二年四月四日

長野県中野立志館高等学校長

鈴木 道穂

